

岡山大学病院ますかっと病児保育ルーム Newsletter

vol.13 (2024.3)

子どもの花粉症が年々増加しています。花粉症の特徴や症状をお知らせさせていただきます。

○子どもの花粉症は増えている

子どものスギ花粉症は年々増えており、5～9歳で30.1%、10～19歳で49.5%と大人の発症率と変わりません。つまり、5～9歳は、3人に1人、10～19歳は、2人に1人がスギ花粉症なのです。特に幼児はうまく症状が伝えられません。一般的に、小児のアレルギー性鼻炎は治療が難しいといわれているので、保護者が気をつけて早めに適切な治療を始めることが大切です。

○季節性のアレルギー

・スギ花粉、ヒノキ花粉、ヨモギ花粉、イネ科花粉、ブタクサ花粉

○通年性のアレルギー

・ダニ、ハウスダスト(ホコリ)、カビ、PM2.5、黄砂

○花粉症の特徴

大人と同じように子どもの花粉症も、鼻づまり、鼻水、鼻のかゆみ、くしゃみ、目のかゆみなどつらい症状に悩まされます。春先に熱がないのにくしゃみや鼻づまりが長引くようでしたら、花粉症を疑ってみましょう。花粉症に伴う症状は、勉強や睡眠、ひいては心身の発達に影響を及ぼすので、気をつけてあげましょう。

○子どもの花粉症を疑うべき症状

- ・しょっちゅう鼻水をすする
- ・よく鼻を拭く
- ・よく鼻をこする
- ・口呼吸をしている
- ・いびきをかく
- ・目をかく
- ・目のまわりに黒いくまがあるなど

※鼻や目のかゆみ、鼻づまりのために睡眠不足になると、昼間ボーっとする、元気がないといった様子がみられます。また、子どもの場合は中耳炎、副鼻腔炎、扁桃肥大を併発することも多いので、これらの症状には気をつけましょう。



○何科にいけば良いの？

子どもが花粉症かもしれないと思ったとき、何科に連れて行けばいいのかわからないか悩むことがあるかもしれませんが、小児科または耳鼻咽喉科、アレルギー科、また目のかゆみが強い場合は眼科を受診しましょう。

○子どもの花粉症の治療法

花粉症対策の基本は、大人と同じように花粉をできるだけ浴びないようにすることです。外では、マスクやメガネを着用するようにすると、鼻や目に入る花粉の量を大きく減らすことができ、症状の悪化防止につながります。学校などから帰ったら、手洗い、うがい、洗顔などを行うように促しましょう。花粉症シーズンだけでなく、このような習慣をつけることは感染症の予防にもつながります。花粉が飛散する季節は家の中をこまめに掃除し、子ども部屋に高性能HEPAフィルター付空気清浄機を設置しましょう。スギ花粉症の場合は、飛散開始と同時に、飛散開始の1週間くらい前、少しでも症状が出たときのいずれかが、治療を始めるベストタイミングです。対症療法としては、抗アレルギー薬などの内服薬や点鼻薬、点眼薬、そして鼻噴霧用ステロイド薬、点眼ステロイド薬が組み合わせられます。日本気象協会などが発表する花粉情報をチェックして、効果的な治療を行いましょう。

また免疫療法としては、スギ花粉に対する舌下免疫療法などが行われるようになってきています。このような新しい治療の効果が期待されています。



利用定員、開設時間等

- 利用定員 6人
- 対象児童 生後6か月から小学校6年生まで
- 利用時間 月曜～金曜日 午前8時00分～午後5時30分まで

お問い合わせ

岡山市北区鹿田町2-5-1 歯学部棟3階
ますかっと病児保育ルーム
TEL 086-235-7301



ホームページはこちら